

## サバ科魚類ヒラサワラ *Scomberomorus koreanus* の 日本沿岸からの 2 番目の記録

畑 晴陵<sup>1</sup>・岩坪洸樹<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学研究所)

<sup>2</sup> 〒 898-0001 鹿児島県枕崎市松之尾町 33-1 枕崎お魚センター 1F 鹿児島水族博物館

<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

サバ科サワラ属 (*Scombridae*: *Scomberomorus*) は世界で 18 種が有効種として認められており (Collette and Nauen, 1983), そのうち, 日本からはヨコシマサワラ *S. commerson* (Lacepède, 1800), タイワンサワラ *S. guttatus* (Bloch and Schneider, 1801), ヒラサワラ *S. koreanus* (Kishinouye, 1915), サワラ *S. niphonius* (Cuvier, 1831), ウシサワラ *S. sinensis* (Lacepède, 1800) の 5 種が知られている (中坊・土居内, 2013).

2015 年 1 月 19 日に鹿児島県日置市東市来町沖で 1 個体のヒラサワラが採集された. この標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるとともに, 日本沿岸における 2 番目の記録になるため, ここに報告する.

### 材料と方法

計数・計測方法は Marr and Schaefer (1949) を改変した Gibbs and Collette (1967) にしたがった. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った. ヒラサワラの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島県産の 1 標本 (KAUM-I. 68335) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, 固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用

いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り. FRSKU- 京都大学舞鶴水産実験所; KAUM- 鹿児島大学総合研究博物館.

### 結果と考察

*Scomberomorus koreanus* (Kishinouye, 1915)  
ヒラサワラ (Figs. 1-2)

*Cybbium koreanum* Kishinouye, 1915: 11, pl. 1-6 (type locality: western coast of Korea).

**標本** KAUM-I. 68335, 鹿児島県日置市吹上浜江口漁港沖 (31°38'N, 130°15'E), 2015 年 1 月 19 日, 岩坪洸樹・田中 積.

**記載** 本標本は吻端を損傷しており, 体長および尾叉長を計測することはできなかった. 背鰭 16 棘 21 軟条; 臀鰭 21 軟条; 胸鰭 21 軟条; 腹鰭 1 棘 5 軟条; 第 1 鰓弓上枝鰓耙 3 本; 下枝鰓耙 12 本; 総鰓耙 15 本. 体は細長い卵型で尾柄部はよく側扁する. 体の輪郭は背腹が同程度に膨らむ. 体高は胸鰭の 191.0% と高く, 第 2 背鰭起部で最大. 胸鰭基底上端は背鰭および腹鰭起部より前方, 鰓蓋後縁よりも後方に位置し, 下端は背鰭第 3 棘条起部直下と第 4 棘条起部直下の間に位置する. 胸鰭後端は尖り, 背鰭第 11 棘条起部直下に達する. 腹鰭は短く, 胸鰭の 34.9%. 腹鰭起部は胸鰭第 5 軟条起部直下に位置し, たたんだ腹鰭の後端

Hata, H., H. Iwatsubo and H. Motomura. 2015. Second record of *Scomberomorus koreanus* (Perciformes: Scombridae) from Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 167-170.

✉ HH: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Scomberomorus koreanus* (KAUM-I. 68335, Kagoshima Prefecture, Japan; ca. 842 mm standard length).

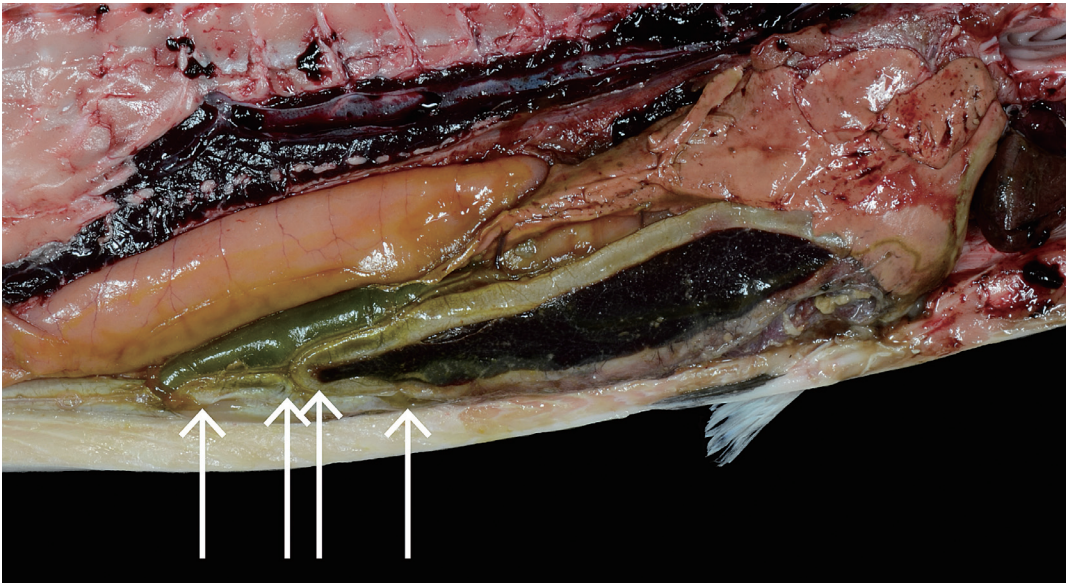


Fig. 2. Lateral view of viscera of *Scomberomorus koreanus* (KAUM-I. 68335, Kagoshima Prefecture, Japan). Arrows indicate bends of intestine.

は背鰭第6棘条起部直下に位置する。背鰭起部は腹鰭起部直上に位置する。背鰭第1棘条は短く、眼窩径の89.0%。第1背鰭基底は長く、第2背鰭基底の137.2%。第1背鰭と第2背鰭は近接する。第2背鰭起部は臀鰭起部よりも前方に位置し、第2背鰭基底後端は臀鰭第18軟条起部直上に位置する。臀鰭起部は第1背鰭第8軟条起部直下に位置する。第2背鰭および臀鰭は鎌状。尾鰭は二叉

型で、深く湾入する。肛門は臀鰭起部直前に開孔し、腹鰭基底前端から肛門前縁までの距離は大きく、胸鰭基底上端から背鰭起部までの距離の435.1%。側線は完全で、胸鰭基部上方から始まり、前部で上下に微小な枝脈を出し、細かく波打ちながら第2背鰭起部直下付近から緩やかに下降し、尾柄にかけて走る。眼窩および瞳孔はそれぞれ円形。鼻孔は2対で眼の前方に位置する。前鼻孔は

円形で、後鼻孔は背腹方向に長い長楕円形で、互いに近接する。鰓耙は細長く、先端は丸い。擬鰓を有する。口裂は大きく、上顎後端は眼窩後縁よりわずかに後ろに位置する。主上顎骨後端は露出する。両顎歯は強く側扁し、三角形で、それぞれ1列に並ぶ。口蓋骨歯、鋤骨歯および基舌骨歯は歯帯をそれぞれ形成する。鰓蓋後縁は円滑。尾柄の上下に小さい隆起線があり、中央部にひだ状の隆起線がある。鰭を欠く。腸の巻き方は複雑で、4曲点がある。

**色彩** 生鮮時の色彩 一体背面は黒色。体側上部は薄墨色で、体側には小黑斑が散在する。体腹面は一樣に銀色。第1背鰭は一樣に淡い黒色。第2背鰭、背鰭後方の小離鰭、胸鰭および尾鰭は灰色がかった黒色。腹鰭は一樣に灰色。臀鰭および臀鰭後方の小離鰭は白色。尾柄の隆起は一樣に黒色。虹彩は白色で、瞳孔は青みがかった黒色。

**分布** インド・ムンバイ以東のインド洋、シンガポール、インドネシア・スマトラ島から朝鮮半島南西岸にかけての西太平洋に分布する(岸上, 1915; Collette and Nauen, 1983; Collette and Russo, 1984; Collette, 2001; 中坊・土居内, 2013)。国内では若狭湾(Nakamura and Nakamura, 1982)および鹿児島県(本研究)から報告がある。

**備考** 本標本は上顎後端が露出し、眼窩後縁よりわずかに後ろに位置すること、両顎歯は強く側扁し、三角形であること、口蓋骨歯と鋤骨歯は歯帯をそれぞれ形成すること、第1鰓弓上枝鰓耙数が3であること、第1背鰭棘数が16であることなどが Collette and Nauen (1983) や Collette and Russo (1984), Collette (2001) が報告した *Scomberomorus* の標徴と一致した。さらに、背鰭軟条が21本であること、臀鰭軟条が21本であること、第1鰓弓総鰓耙が15本であること、側線は完全で、胸鰭基部上方から始まり、前部で上下に微小な枝脈を出し、細かく波打ちながら第2背鰭起部直下付近から緩やかに下降し、尾柄にかけて走ること、腸の巻き方は複雑で、4曲点があることなどの特徴が Nakamura and Nakamura (1982) や Collette and Nauen (1983), Collette and Russo (1984), Collette (2001), 中坊・土居内 (2013) の報告した

*Scomberomorus koreanus* の標徴とよく一致した。なお、本標本から得られた計数値は Nakamura and Nakamura (1982) や Collette and Nauen (1983), Collette and Russo (1984), Collette (2001), 中坊・土居内 (2013) の示した *S. koreanus* の計数値と一致した。本種は側線前部で上下に微小な枝脈をだすこと、腸に4曲点があることなどで同属他種から識別される (Collette and Russo, 1984)。

*Scomberomorus koreanus* は韓国西岸から得られた標本に基づき岸上 (1915) によって *Cybius koreanum* として新種記載され、同時に和名ヒラサハラが提唱された。その後、Nakamura and Nakamura (1982) は1978年11月に若狭湾で採集されたヒラサワラ3標本 (FRSKU W622, 625, 650, 標準体長285–342 mm) を報告し、これがヒラサワラの日本沿岸からの初記録となった。その後、本種の日本沿岸からの標本に基づく報告はなく、本報告が鹿児島県におけるヒラサワラの標本に基づく初めての記録ならびに日本沿岸からの2例目の記録となる。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、原口百合子氏、高山真由美氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教

育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Collette, B. B. 2001. Scombridae. Pp. 3721–3756 in K. E. Carpenter and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, vol. 6, no. 4. FAO, Rome.
- Collette, B. B. and Nauen, C. E. 1983. FAO species catalogue. Vol. 2. Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of tunas, mackerels, bonitos and related species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 2 (125): 1–137.
- Collette, B. B. and Russo, J. L. 1984. Morphology, systematics, and biology of the Spanish mackerels (Scombridae). Fishery Bulletin, 82 (4): 545–692.
- 岸上鎌吉. 1915. サバ・サハラ・シビ類の研究. 水産学会報, 1: 1–24.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. サバ科. Pp. 1648–1654, 2224. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakamura, I. and Nakamura, R. 1982. New records of two species of *Scomberomorus* from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 28 (4): 445–449.